

日本地球掘削科学コンソーシアム 2005年会員総会・議事録

日時：2005年4月3日(日) 14:00～16:30

場所：東京大学海洋研究所 講堂

出席者：別紙参照(別添資料)

議事内容：別紙参照(配布資料一式；資料0～8)

AESTO 山川が進行をし、開会挨拶・議長選任を進めた。

1. 開会挨拶(浦辺 陸上掘削部会長)ポツダムでのICDP会議に出席し、帰国したばかりであるJDESCの紹介や陸上部会が準備中であるプロポーザルの紹介をした。
2. 議長選任 両執行部会から熊本大学松田博貴氏が推薦され、拍手によって承認された。

本総会成立、定足数22機関のところ正会員機関21、委任状11機関の合計32研究機関の出席により、本総会が成立した旨、山川より報告された。

以下、議長である松田氏の進行により進められた。

### 3. 議事次第(案)確認

資料0の議事次第に沿って進める旨、報告後、承認された。

4. 2004年度活動報告(IODP 部会事務局・陸上掘削部会事務局)
5. 2004年度決算報告・承認(コンソーシアム事務局・監査役)
6. 役員の変更について(理事会・コンソーシアム事務局)
7. IODP 部会長の交代について(IODP 部会事務局)
8. 2005年度活動方針について(IODP 部会長補佐・陸上掘削部会長)
9. 2005年度予算案承認(コンソーシアム事務局)

#### 10. その他

- ・IODP を取り巻く現状について、および今後我が国のサイエンスコミュニティーのなすべきこと(IODP 部会長ほか)
- ・国際ワークショップ「Continental Scientific Drilling 2005: A Decade of Progress and Opportunities for the Future」の報告と、我が国の「陸上掘削サイエンスプラン」の作成について(陸上掘削部会長ほか)
- ・その他

#### 11. 議長解任

4 . 2004 年度活動報告 ( IODP 部会事務局・陸上掘削部会事務局 ): 資料 1 ・ 2 ・ 3 参照

J - DESC IODP 部会報告 ( AESTO 山川 ) 添付資料 1 ・ 2 参照

J-DESC 全体の報告と IODP 部会の活動を併せて , AESTO 山川が報告した .

- ・ 会員総会

2004 年 4 月に定例総会を実施

臨時メール総会により , 2004 年 5 月会長の交代 , 2005 年 1 月徳山 IODP 部会長退任が承認された

- ・ 幹事会・執行部会

専門部会・WG 設置の承認 , コアセンター全国利用委員の推薦 , パネル委員の推薦 , JAMSTEC との協議などを行った

執行部会はほぼ月 1 回のペースで開催した . 科学計画策定 , 国際対応 , 予算要求 , 教育・広報などの活動 , 新執行部への引継ぎ

- ・ 専門部会

国際パネル委員の推薦 , 委員活動推進 , 乗船研究者推薦などを行った . 開催実績は , 添付資料参照 . 多くの専門部会が 2 回開催 . 科学計測専門部会は 3 つの WG を有し , 4 回開催 .

- ・ 国際委員会パネル対応 科学立案評価パネル委員会のパネル委員を公募した

- ・ 乗船研究者の推薦

乗船希望者が次第に減少してきている . 乗船研究者推薦のためのスケジュールに沿って , 推薦してほしい .

- ・ 研究支援 会員提案型活動経費は両部会の共通事業 2005 年度分は 8 件採択

- ・ 教育・普及・広報活動

IODP 大学 & 科学館キャンペーン 6 回および番外編 3 件を行った . 2005 年度は 4 回実施の予定 ( 新潟・東海・秋田・島根の各大学 )

国際・国内学会におけるブース展示・タウンミーティング・夜間小集会などを行った . 会員機関への情報発信やプレスリリースを行っている

- ・ 国際対応 乗船研究者の推薦に関し , 各 IO と連携している . アジア諸国との連携やアジア諸国の IODP 参加を推進している .

- ・ 予算要求活動 文科省深海掘削委員会への IODP 研究支援体制構築への呼びかけ , 特に競争的資金への積極的応募の呼びかけを行い , H16 年度以降の活動経費の確保を行っている .

- ・ IODP プロポーザルの状況 127 件のプロポーザルが提出されている . リードプロポーネントとしての日本人は 16 名 .

質疑応答 : 特に質疑はなく , 次の報告へ進んだ .

J - DESC 陸上掘削部会報告 ( 浦辺部会長 ) 資料 3 参照

- ・ 2004 年度の J - DESC 会員総会によって設置された . 最大の目的は , 「陸上掘削サイエンスブ

ラン」を策定することである。2005年夏には印刷できるであろう。賛助会員として企業が20社ほど参加してくださり、掘削計測・技術検討専門部会が設置された。「安くて、深く、コアを得る。」ということを目標に陸上掘削の技術を検討している。

- ・活動報告は配布資料に掲載。JSPSの国際研究集会補助金が2004年8月に採択された。JSPSの前渡金として配布されるものであったが、東京大学の機関経理金により処理をすることとの関係で、AESTOを含め検討したが、最終的に返上した。3月15日に国内関係者で検討会を行った。
- ・サイエンスプランについて 島弧マグマ活動・地殻内流体・付加体掘削・地震断層掘削・環境変動・地下生物圏・メタンハイドレート・地層処分と地下空間の利用・都市地質・ハザードマップ・陸上と深海掘削とのリンケージなどの内容を含む、日本語100ページ前後の冊子を作成する。政策立案決定者が分かるものを作り上げる。4~5月執筆、6~7月出版の予定。それに伴う予算を計上している。

以上の報告を踏まえ、質疑応答を行った。

#### 質疑応答

- ・キプロスのボーリングの予算規模は非常に小さく、日本の経費の10分の1程度であった。そういうものを参考にする必要があると思われる。

確かに日本の掘削は高かったのが、安く出来ないのか？というところを全国ボーリング技術境界と検討している。ICDPでは湖の掘削装置が出来ていて、アフリカの湖やチベットの掘削提案が出ている。ロセック社が掘削機を作っており、ハワイでも掘削している。国際的に様々な機器がそろってきているので、それを利用すれば、安く済むと思う。(浦辺部会長)

その他、質疑無く2004年活動報告は了承された。

#### 5. 2004年度決算報告・承認(コンソーシアム事務局・監査役)資料4参照

- ・AESTO山川が報告した。
- ・執行状況が当初予算に比べ少なくなっている。陸上掘削部会のサイエンスプラン作成費は、ポツダム会議を踏まえるということで、2005年に繰り越したため、当初予算と異なっている。
- ・繰越金が500万円を超えているが、キャンペーンなどの活動経費については、CDEXの手弁当であったり、ということもある。会員提案型経費などまだ執行されていない部分もあるが、AESTOの外部監査(公認会計士)での意見を伺い、特別会計として処理している。AESTOとして6月ごろまでに、決算をするので、正式な決算報告については、各会員にJ-DESCのHPにて報告する。以上の収支決算に関するコンソーシアム会計監査報告(監査役 宮下純夫新潟大学教授)を宮下監査役が海外出張のために山川が代読した。

#### 質疑応答

- ・ AESTO が監査を受けるの第三者機関というのは誰のことを指すのか？  
第三者機関とは AESTO の外部監査（公認会計士）のことである。（山川）
  - ・ 宮下氏が理事であり，同時に監査役であるのは問題ではないのか？規約を解釈すると会長が監査役をしても良い，ということにはならないか？  
このような兼務については、規約での制限はないので問題はない。また，理事は新潟大学という研究機関代表であり，監査役はそれに属する研究者個人である。（山川・喜多河）  
そういうことは通常無いので，書かないと思うのであるが。（浦辺部会長）  
今後，不都合がないよう，幹事会などで検討する。
- その他，質疑無く拍手により，2004 年会計報告が承認された。

#### 6． 役員の改選について（理事会・コンソーシアム事務局）資料5 参照

- ・ AESTO 山川より説明があった。
- ・ 配布資料の以下の点について訂正の説明があった  
石原会長の氏名の訂正（誤：石原瞬三 正：石原舜三）  
2005 年度 JAMSTEC・IFREE 理事（誤：巽好幸 正：北里洋）  
質疑無く，拍手により承認された。

#### 7． IODP 部会長の交代について（IODP 部会事務局）資料5 参照

- ・ AESTO 山川より IODP 部会長交代の件につき経緯等の説明がなされた。  
徳山前部会長より辞意は表明された。木村学氏を WG 長とする部会長選出 WG を設置し，検討の結果，鈴木徳行北海道大学教授を推薦した。

拍手により，新部会長が承認された。

- ・ 鈴木 IODP 新部会長より，2005 年度の IODP 部会執行体制が報告された  
部会長補佐として北海道大学阿波根氏。部会執行部 5 名が留任（徐氏は国際対応を行ってきたので，短期間の可能性はあるが，引継ぎのために留任。巽氏は研究費対策を行ってきたので，これも当分の期間，留任していただく）。他，6 名が新たに部会執行部となった。
- ・ 浦辺部会長より **IODP 陸上掘削部会執行体制**の説明があった。

#### 8． 2005 年度活動方針について（IODP 部会長補佐・陸上掘削部会長）

##### **IODP 部会** 資料 6 参照

- ・ 阿波根 IODP 部会長補佐より 2005 年度活動方針が報告された。  
執行部会員は北海道から九州に渡っているので，執行部会は出来る限りメールで行う。IODP 部会専門部会は，SAS の構造変更に伴って，検討を行う。乗船研究者推薦は，今年度分に関してすべて 4 月中に決定する。韓国が 3 月に IODP に参画する方向を決定したようである。

アジアコンソーシアムを設置する方向で進んでいるので、J-DESC としてもサポートしたい。

・本執行部での課題として次の点が挙げられる。

- 乗船研究者の各国卒の flexibility に関する枠組みの連携と構築。緊急時を想定した、国際的連絡体制の整備
- 乗船研究者が教育・広報を行う際のガイドラインの策定
- 戦略的乗船計画の検討
- 予算要求活動：科研費細目の新設など

以上の報告を踏まえ、質疑応答を行った。

・最後の課題である予算の件に関して、乗船研究者が比較的すぐに使えるような予算を確保するということが必要であろうと思う。今後の執行部は全国に広がるということで、新しいアイデアが必要だと思う。

新執行部としても深刻に受け止めている。現在、情報収集を行い、今後の方針を検討中である（阿波根氏）。

MEXT 内部の委員会で、科研費細目のノミネートはされている。4 月中に良い答えがあれば・・・基本的に研究費は、上から降りてくるものではない。競争的資金の枠組みで、良い方向を模索しているところである。（巽氏）

科学技術推進費を申請した。孔内計測・スマトラがらみで、乗船研究費には使える予定である。ヒアリングまでは進んだので、期待している。「ちきゅう」が動き出せば、JAMSTEC としての研究計画の中で、どうにかなりそうではある。（平氏）

研究費獲得活動も必要ですが、J-DESC が研究費を受けやすくする体制（法人化など）も模索する時期であろう。（鈴木氏）

・新しい執行部に期待したい。Co-chief と乗船研究者の最終決定は、J-DESC という認識でよいか？研究活動を実質化していくのはその部分だと思う。

最終決定は Co-chief と IO です。推薦は、専門部会が中心に行い、JDESC 執行部も努力するということです。（阿波根氏）

乗船研究者のランキングは専門部会が行い、JDESC 執行部は National Office として、こういうリストですよ、と出している状況です。学生が乗船したい、といっても指導教員が許可しないということもありうるので、会員機関に協力いただきたい。（荒井晃作氏）

・ポテンシャルに可能性のある研究者などをどこかにリストアップしておく、といったことが、何名も研究者を送り込まないといけない状況では必要ではないでしょうか？計画を遂行する上で、今後、問題が生じないか、と危惧しています。乗船研究者の経験談の取りまとめや公開とか乗船前のトレーニングをしっかりとっているのか？

05 年は急遽決定したというのは確かです、執行部も十分に対応できなかった面はある。乗

船研究者のマニュアル本のようなものは、われわれも入手して、Co - chief には渡している。乗船研究者候補者リストに関しては、会員機関以外も含め、より広いものを作っていく必要があると考えている。(荒井晃作氏)

本日の活動計画の中に「戦略的」というのがあったが、具体的な研究計画を作っていく。(鈴木氏)

- ・静岡大学としては本年2名が乗船するが、われわれのところではこれだけ出ると、学内の役割などを分担しなくいけない。戦略的経費を含めて、地方大学はほとんどお金はありません。それでも乗船研究者を出している。アメリカではNSFが学生やCo - chief といった乗船研究者にお金を出している。その点で日米比較・レートを考えてほしい。会費を出すことすら、学内には反対する教員がいるのである。消耗品・郵便代・連絡代……などなど、そういったお金は、最近は無いのである。身金を切るということが、大学院生などに分かったら、参加しません。日本で乗船枠を確保し、そこをアジアに出すとか、そういうことを進めて、サイエンスを進めることを具体的に検討して下さい。

今のご意見の前半部分(日本の予算比較)はHPに出してありますので、見て下さい。現状、できることはやっています。(巽氏)

- ・その意見に全面的に賛成します。ODP航海に乗船参加しましたが、研究費が無く、1年間試料を分析できなかった。乗船し、試料を得た後に使える研究費が欲しい。乗船研究者の推薦などに関しても、お金や本人の研究との関係などを考慮してください。

以上の意見を新しい執行部で検討することを議長が要請し、質疑を終えた。

#### **陸上部会 資料7参照**

- ・浦辺部会長から2005年度活動方針が報告された。
- ・執行部体制については、必要最小限の修正とする。防災科研の山田氏が加わった。目標は、サイエンスプランの出版を行い、アピール・宣伝のために、シンポジウムを行う。サイエンスプランをその後、ICDPワークショップへ応募し、日本発の掘削計画へ繋げて行きたい。掘削計測・技術検討専門部会は全ボー協のボランティア的な働きなので、そういった企業に見返りがあるような活動になるようにしたい。部会の問題ではないが、法人化に関して、検討委員会を作り、JDESC法人化を目指したい。

上記報告を踏まえ質疑応答を行った。

- ・陸のコア保管は検討されているのでしょうか？海のコアは高知コアセンターへの保管が決まっているが、出来たら海と陸を一緒にというのが良いと思いますので、検討してください。

- ・法人化の話ですが、非常に重要な内容だと思います。H17年から法律が変わりますので、学術団体は300万円で出来るということのようですから、是非、強力に進めてください。
- ・1ヶ月前に海洋研究所のシンポジウムで陸と海に関する内容を取り上げたのですが、これまであまり交流が無かった2つの分野が一緒にやってよかったと思います。掘削の提案を、海と陸、別個にやるのではなく、たとえばフィリピン海は両方の特徴も持っているのです、そういう方向も追求して欲しいと思います。  
法人化というのは重要ですので、予算案で法人化を検討するというのを承認していただきたい(浦辺氏)

#### 9. 2005年度予算案承認 資料8参照

- ・AESTO 山川より 2005年度の予算案が報告された。
- ・教育・広報・普及キャンペーンへの予算を多く取っている。法人化検討の調査費を計上している。IODP 部会は全国に散らばっているのです、執行部活動経費を計上している。キャンペーンで乗船研究者(大学院生)から報告してもらう計画があり、その出張旅費として予算を計上している。

上記の報告を踏まえ質疑応答を行った。

- ・AESTO 事務体制はどのようなものになっているのでしょうか？

西川職員が4月からJAMSTECに戻った。非常に大きな働きをしていただいた。現状では、増田さん・金井さんが4月から加わった。AESTOの職員も、国際対応できるような職員を、広く求めたいと考えている。が、予算上の拘束も厳しく、何らかの形で西川氏に代わる優秀な人材が欲しい。(山川)

その他、質疑無く、拍手により承認された。

#### 10. その他・自由意見交換

- ・IODP を取り巻く現状について、および今後我が国のサイエンスコミュニティーのなすべきこと  
鈴木 IODP 部会長：本日、お金の話がありました。国内で対応する部分もありますが、国際的に考えなくていけない部分もあります。乗船研究者に関して、ロングタームで平等になるような方法を訴えたいと思っています。また、韓国が IODP に関わっていくという方向が決まりました。その他、中国・台湾・オセアニアも加わりたいようです。そういう部分を応援できるようにしたい。国際的な IODP シンポジウムなどを開催し、日米欧以外の研究者にもアッピールしたいと思っています。

・「ちきゅう」の運行予定について

平氏：「ちきゅう」の引渡しは当初4月であったが、デリックを作ったメーカの他の製品がシンガポールで壊れた。見直しをしたところ、「ちきゅう」に関しても80箇所の補修が必要になった。3ヶ月必要であるということになった。国際運用への投入などには時期の変更はない。JAMSTECとJDESCの関係が非常に重要であるということがわかった。

今後の「ちきゅう」のスケジュールの2007年度秋(9～10月)に国際運用開始は代わらない。2005年7月29日にJAMSTECへ引渡し、9月に横浜・横須賀・名古屋で一般公開、その後慣熟航海を行う。ODPレガシーコアのインド洋・西太平洋掘削分が高知コアセンターに保管されることが、MEXT-NSFの会議で決まった。今後はそういったコアも利用して、若手の育成をしていきたい。

以上のコメントを踏まえ質疑応答を行った。

・高知コアセンターに保管される西太平洋のコアはどこが境界か？

海溝までではなく、海側の陸側リファレンスコアは高知に来る。DSDP-ODP含めてすべて高知に保管されることになる。(平氏)

・高知は非常に重要になってくるわけですが、今後充実されることを期待しています。

基本的な方針はしっかりしています。高知の機器を使って若手を育成するというのを広げて行きたい。(小玉氏)

・高知コアセンターにコアが来るという話を始めて聞いたのですが、現在の世界のレポジットリでは、掘削後手付かずの試料も多く存在するので、今後、どんどん活用して欲しいと思います。

・日本から質の良いプロポーザルを出すということで、JAMSTECがそれを推進するのは良いことですので、JDESCと打ち合わせて欲しいと思います。

・高知コアセンターに来るコアを、他のアジアなどの国々に公開し、シンポジウムを開くなどしてはどうかと思います。

## 11. 議長解任

松田氏の議長の労を拍手でねぎらい、議長解任とした。

## 12. 挨拶

石原コンソーシアム会長および田中文科省海洋地球課、〔宮崎係長(里村係長の後任)の紹介〕から挨拶が頂戴した。最後に、鈴木IODP部会長より閉会の挨拶があり、総会を終えた。



出席者リスト

( 1 ) 席正会員機関 < 21 機関 >

北海道大学 大学院理学研究所

秋田大学 工学資源学部応用地球科学教室

東北大学 理学研究科

筑波大学 大学院生命環境科学研究科

防災科学技術研究所

東京大学 大学院理学系研究科

東京大学 海洋研究所

東京大学 地震研究所

早稲田大学 理工学部環境資源工学科 地球・環境資源理工学専門分野

千葉大学 理学部地球科学科

海洋研究開発機構 地球内部変動研究センター (IFREE)

海洋研究開発機構 極限環境生物圏研究センター (XBR)

海洋研究開発機構 地球深部探査センター (CDEX)

信州大学 理学部

金沢大学 理学部地球学 / 自然

静岡大学 理学部地球科学教室

東海大学 海洋学部

京都大学 大学院理学研究科地球惑星科学専攻

京都大学 大学院工学研究科社会基盤工学専攻

九州大学 大学院理学研究院

熊本大学 理学部

( 2 ) 委任状 < 11 機関 >

北海道大学 低温科学研究所

茨城大学

産業技術総合研究所 地質情報研究部門 (代理人出席)

Micropaleontological Reference Center (国立科学博物館 / 宇都宮大学)

新潟大学 理学部大学院自然科学研究所 (代理人出席)

国立極地研究所 地学研究部門

富山大学 理学部

神戸大学 理学部地球惑星科学科

島根大学

岡山理科大学

高知大学 海洋コア総合研究センター（代理人出席）

（３）正会員機関所属者・個人会員等＜１０名＞

---

（説明者）

IODP 部会長 鈴木 徳行

IODP 部会長補佐 阿波根 直一

ICDP 部会長 浦辺 徹郎

（コンソーシアム事務局）

山川 稔（説明者）

喜多河 康二

増田 由衣

金井 夕佳